

◆全国発信記事 東北 地方支部 =発信 宮城県石巻港・気仙沼港

秋の味覚・サンマを求め 第一榮久丸が出港

秋の味覚・サンマを皆さんに届けられるよう大漁を目指す

8 月 17 日、宮城県石巻港から今野水産株式会社に所属する、さんま棒受網漁船「第一榮久丸」が出港した。今年は公海さんま漁をせず、去年よりも 3 カ月ほど遅れての出港となった。

7 月 31 日に水産庁が発表したさんまの長期漁海況予報では、昨年を下回る来遊量と予想されており、今年も厳しい漁になると思われる。

出港にあたり「第一榮久丸」の浅野新二労長は「昨日、北海道で小型さんま棒受網漁船が帰港し、水揚げがゼロだと聞いている。今年は過去最低の水揚げ量であった去年よりも厳しい状況になるかもしれないが、秋の味覚であるさんまを皆さんに届けられるよう大漁を目指して頑張っていきたい」と語った。

出港を見送るために集まった乗組員の家族、関係者らに見送られる中、色とりどりの紙テープをたなびかせ出港していった。

---

◆全国発信記事 北陸支部 =発信 富山県魚津港

さんま棒受網解禁に向け出漁

安全操業に努め、サンマで魚食の普及に貢献したい

強い日差しが照りつける中、8 月 20 日からの大型さんま棒受網解禁に向け、8 月 16 日に魚津港より「第 8 珠の浦丸」が出港し、8 月 17 日には気仙沼港より「第 1 恵比須丸」と「第 35 豊進丸」が家族や漁業関係者らに見守られ前線基地となる花咲港（北海道根室市）に向けて出港した。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により自粛ムードが漂う中での出港となり、例年と比べ見送りの人が少なく、また、出港におけるにぎやかさはないものの、家族や漁業関係者からは「体に気をつけてね」「頑張ってこいよ」との言葉が飛び交い、暖かな雰囲気に満ちていた。

今年の漁況では、昨年をさらに下回るとする厳しい予測にあるが、出漁にあたり「第 8 珠の浦丸」船主の中島泰成さん(富山県さんま漁業協会会長)は、検温や消毒液の準備などコロナ対策を徹底したうえで、乗組員には体に十分気をつけていつも通りの安全操業に努めて欲しいと激励するとともに、少しでも多くのサンマを漁獲し魚食の普及に貢献したいと語った。

3 隻は、北方四島周辺から銚子沖（千葉県）にかけての漁場で 12 月頃まで操業する予定でいる。